



SDGsは豊かな地球を守るため、って大きなテーマでなんだか難しい…けれどSDGsは経営課題を解決してくれる大切なキーワードなんです！近くの会社をのぞいて見れば、あれ、これもSDGsなんだ！小さなことでもまずはひとつ。SDGs、始めてみませんか？

有限会社西本

命を「食」だけで終わらせない“革づくり”を次の世代へ



所在地 姫路市花田町高木332-1 社員数 2名
代表者 代表取締役社長 TEL 079-222-1819
吉原 ステファニー
HP <https://nishi-moto.online/>

✓ 100年以上続く革づくりとアップサイクルの取り組み

当社は、大正11年（1922年）に創業した皮革製造業（タンナー）です。一族代々革づくりを家業とし、クロム鞣しによる婦人靴用革を中心に、原皮の購入から仕上げまで一貫したものづくりを続けてきました。5年前に現代表が事業を継承し、用途の幅を広げた革素材の提案にも取り組んでいます。製造現場を見つめ直す中で、端切れや模様ムラがあるなどの理由から、商品として出荷されない革が一定数残っていることに気づきました。そこで国内の製造業者と連携し、調色や加工を工夫して傷やムラを表情として生かしたバッグや小物を「UNIPROUD（ユニプラウド）」のブランドで展開しています。

✓ 食から生まれる“皮”を“革”として子どもたちへ伝える

革（皮革）は、牛などの食肉の副産物から生まれる素材です。命を食としていただくことと、革として活かすことは切り離せない関係にあり、皮革産業はその循環を支えてきました。一方で、革製品として世に出た段階で、その循環が止まってしまっているのではないかという課題意識もありました。

また、姫路の皮革産業は長い歴史を持つ地場産業でありながら、地元でも十分に知られているとは言えない現実があります。伝統ある産業を今後も継承していくためには、次の世代を担う子どもたちに向けた学びの機会が必要だと考えるようになりました。



UNIPROUDのアップサイクルレザー



ワークショップでの講話の様子



ワークショップで制作した革小物

そうした思いから、子どもたちの食や学びの現状について調べていく中で、地域で子ども食堂を支える取り組みがあることを知りました。そこで、売上の一部を子ども食堂の支援に充てる活動を始めるとともに、実際の活動の場ともつながるようになりました。

現在は、子ども食堂が開かれている地域の公民館内で、親子向けのレザークラフトワークショップを実施しています。革に触れる体験を通じて、命を食としていただき、革として活かし、その背景を子どもたちへ伝えていくという循環を大切にしています。

✓ 革づくりの未来へ伝える「場づくり」へ

今後は工場の2階をショールームとして活用し、ワークショップなどを通じて皮革産業の魅力や背景を伝える場づくりにも取り組んでいく予定です。革から生まれるものづくりの循環を、無理のない形で未来へつないでいきたいと思えます。